







# 2021年3月期第2四半期決算 説明資料

2020年11月

上場市場：東証二部  
証券コード：9083



# 目次

-  会社概要
-  2021年3月期第2四半期決算概要
-  2021年3月期 業績予想
-  参考資料



# 会社概要



## 神姫バス株式会社

兵庫県南西部を地盤とするバス交通運営会社グループ

1927年創業

現在、売上高では上場バス会社国内3位

輸送人員は年間約5,000万人

走行キロ数では年間およそ3,430万キロ

バス保有台数 881台

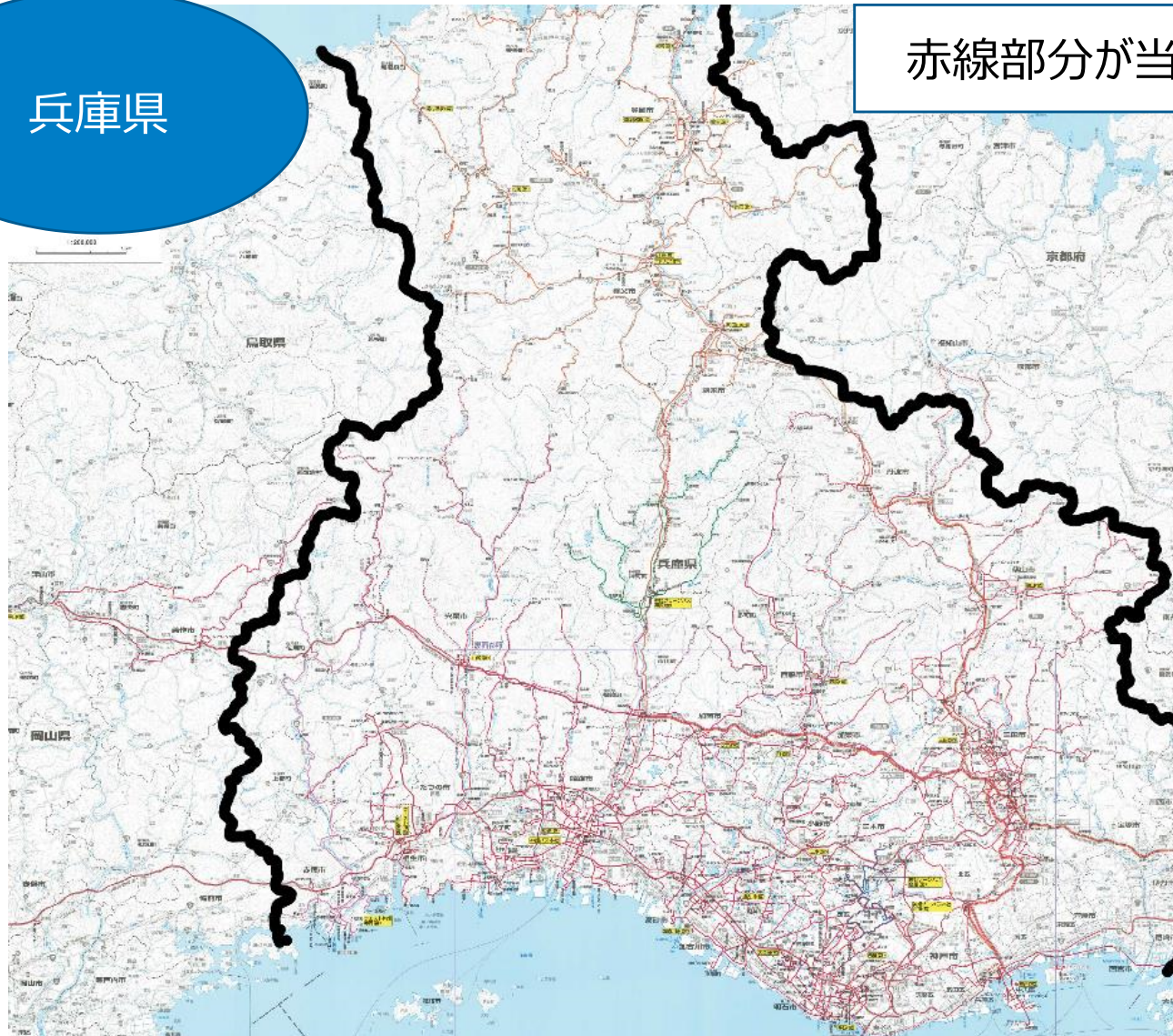
非電鉄系民営で全国3位

関西地区では電鉄系公営含めても4位

# 路線全図

兵庫県

赤線部分が当社路線



路線網は兵庫県全域に展開  
瀬戸内海と日本海を一社グループで接続



# 2021年3月期第2四半期 決算概要

# 2021年3月期第2四半期累計 業績推移

2Q累計営業収益は前年比31%の大幅減少。これに伴い、経常損益も27億円の赤字に転落。コロナ禍による経済活動停滞が自動車運送関連事業全般に影響。非常に厳しい決算

これに対し、役員報酬・管理職賞与の減額、設備投資抑制、乗合バス減便、貸切バス減車、さらには従業員休業などで対応。コスト削減と経営効率化を急ぐも、売上減少の影響吸収には至らず

(百万円)	2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	2021/3期 2Q実績	対前年比	
				増減額	増減率
営業収益	21,903	22,148	<b>15,371</b>	▲6,776	▲30.6%
営業利益	351	642	<b>▲3,114</b>	▲3,756	—
経常利益	438	721	<b>▲2,706</b>	▲3,427	—
経常利益率	2.0%	3.3%	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	223	414	<b>▲2,601</b>	▲3,016	—
ROA*	1.5%	2.5%	—	—	—

\*ROA=年率換算経常利益/期中平均総資産

# 2021年3月期2Q累計 セグメント別業績推移

(百万円)	2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	2021/3期 2Q実績	対前年同期比	
				増減額	増減率
営業収益	21,903	22,148	<b>15,371</b>	▲6,777	▲30.6%
自動車運送	9,384	9,807	<b>6,407</b>	▲3,400	▲34.7%
車両物販・整備	2,984	3,088	<b>2,883</b>	▲205	▲6.6%
業務受託	1,655	1,556	<b>1,460</b>	▲96	▲6.2%
不動産	2,064	2,009	<b>1,693</b>	▲316	▲15.7%
レジャーサービス	3,083	2,896	<b>1,888</b>	▲1,008	▲34.8%
旅行貸切	1,914	2,050	<b>361</b>	▲1,689	▲82.4%
その他	817	740	<b>676</b>	▲64	▲8.6%
営業利益	351	642	<b>▲3,114</b>	▲3,758	赤字転落
自動車運送	▲503	▲420	<b>▲2,897</b>	▲2,477	赤字拡大
車両物販・整備	184	231	<b>206</b>	▲25	▲10.8%
業務受託	123	149	<b>119</b>	▲30	▲20.1%
不動産	688	788	<b>675</b>	▲113	▲14.3%
レジャーサービス	52	52	<b>▲209</b>	▲261	赤字転落
旅行貸切	▲192	▲117	<b>▲988</b>	▲871	赤字拡大
その他	▲2	▲0	<b>▲22</b>	▲22	赤字拡大

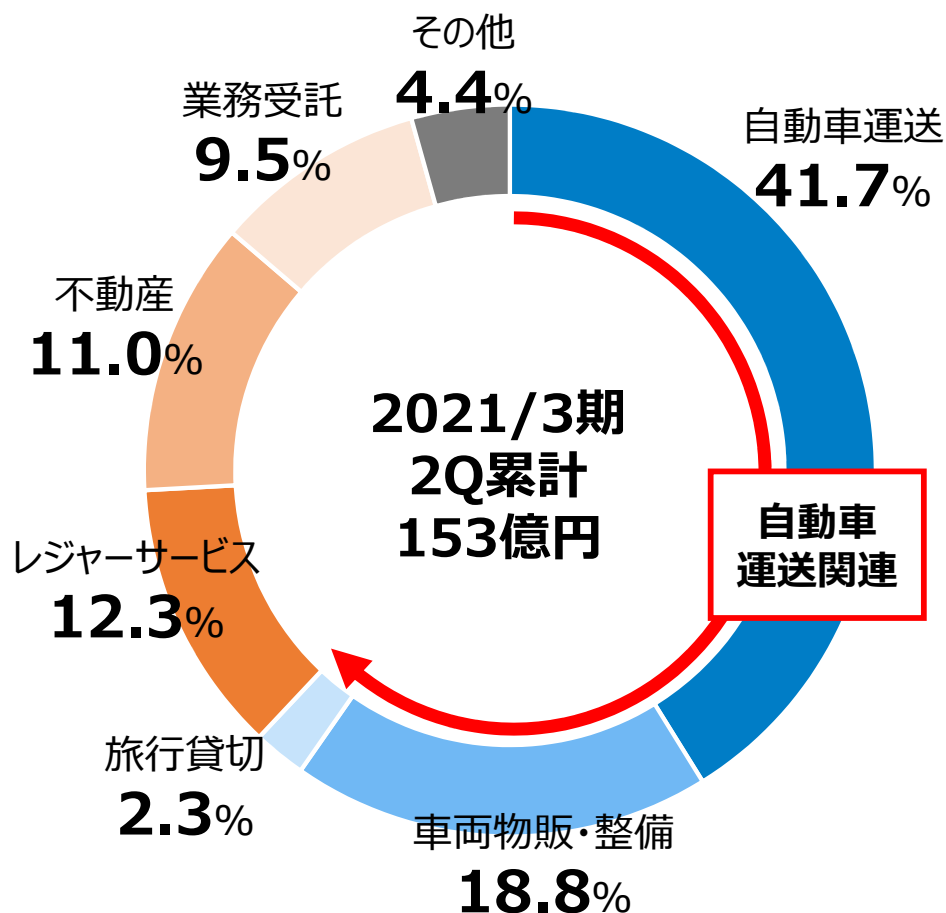


# セグメント収益概要

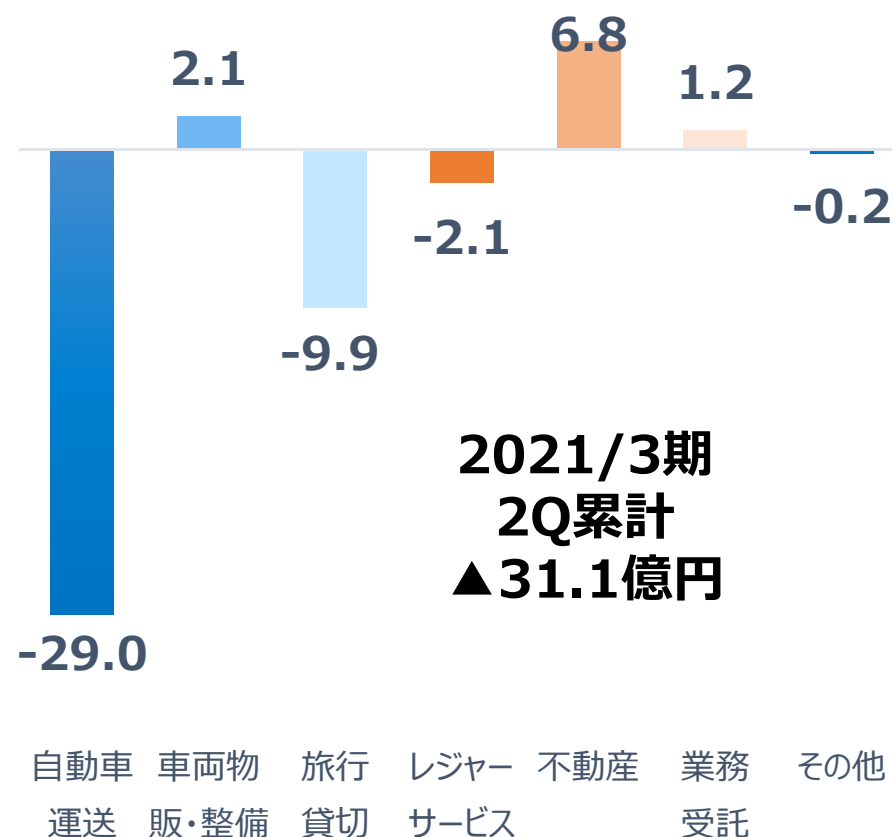
2Q累計時点では営業収益の約63%が自動車運送関連。コロナ禍で前年比5pウエイト低下

営業利益でも自動車運送関連が苦戦。受託ビジネスの物販・整備を除き、バスの路線運行や旅行が赤字に。一方、非自動車運送関連では、レジャーの低迷はあったものの、比較的堅調を維持

営業収益構成比



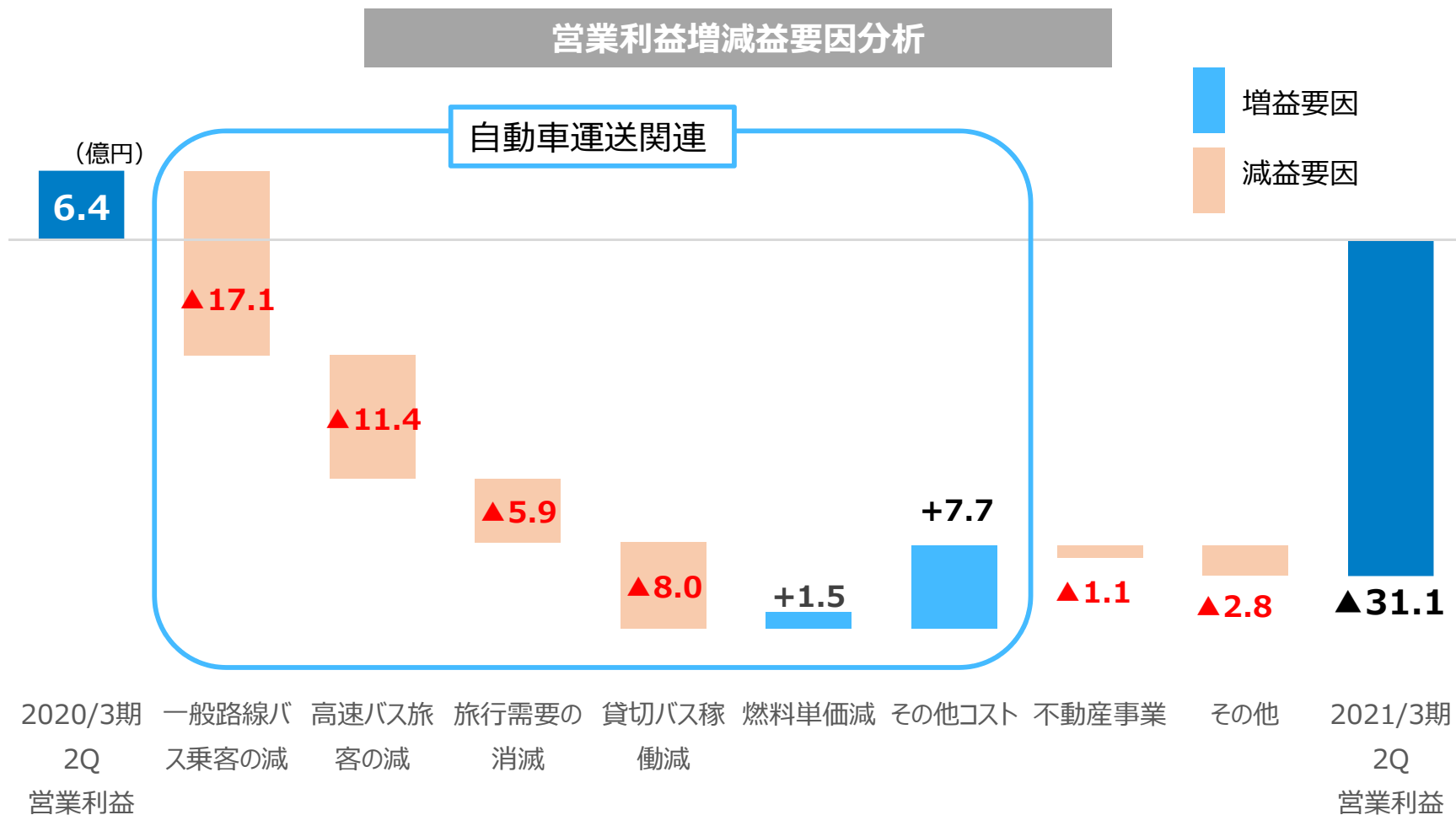
営業利益構成比



# 営業利益増減要因分析

自動車運送関連では5月より稼働率は上昇に転じるも、乗客数減、旅行需要消失などが収益を大きく圧迫。減車・減便・人件費圧縮などでコスト削減進めるも下支え効果は限定的

これまで安定収益源であった不動産・レジャーも、外出自粛・賃料減額などが響き減益に



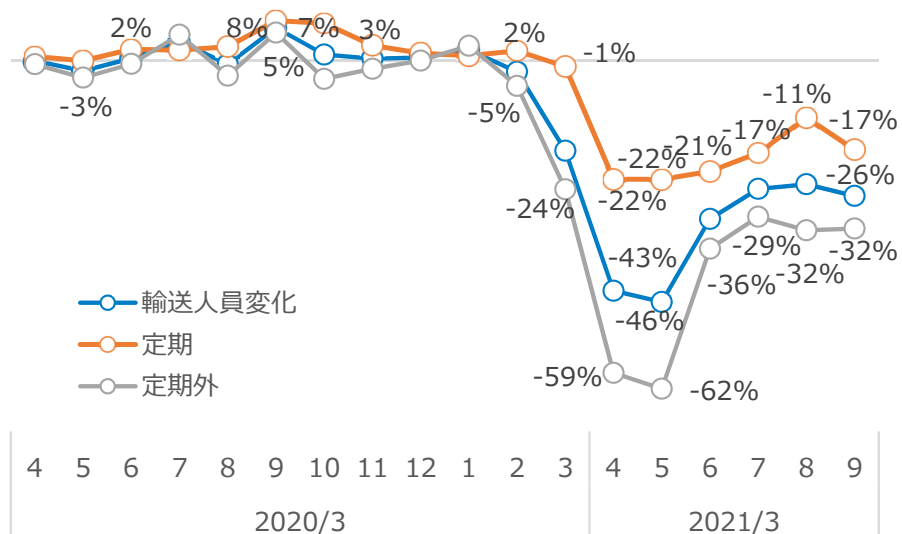
# 自動車運送事業概況

■ 輸送人員は5月の前年比46%減を底に9月は26%まで減少幅縮小。2Qは1Q比増収増益だが、それでも2Q営業収益は前年の74%水準。例年3Qまで赤字だが、赤字幅は依然大きい

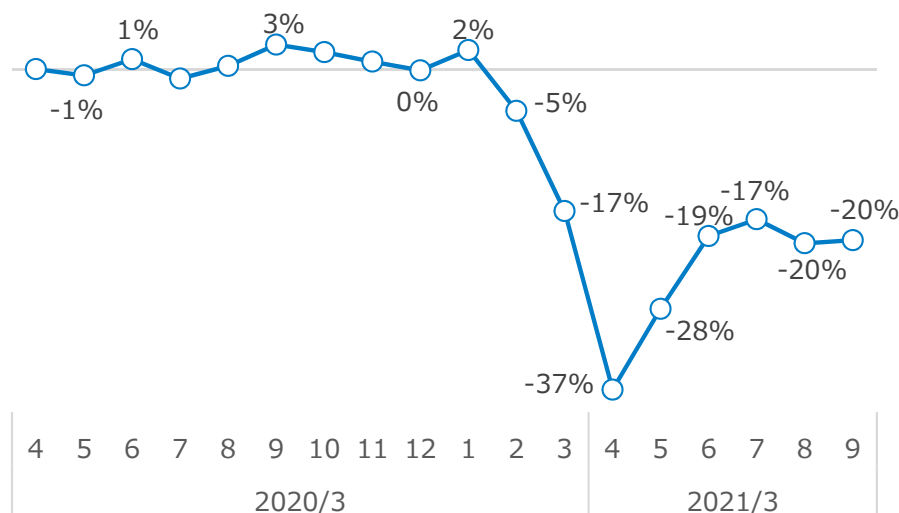
■ 状況の先行不透明感は依然拭えず。定期外輸送人員、キロ当たり乗客数では回復ピッチ鈍い

(百万円)	2019/3期				2020/3期				2021/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業収益	4,727	4,657	5,070	6,093	4,820	4,987	5,000	5,768	2,774	3,633
営業利益	▲291	▲212	▲216	1,116	▲256	▲164	▲250	841	▲1,780	▲1,315

輸送人員 月次変化



営業キロ当たり乗客数 月次変化



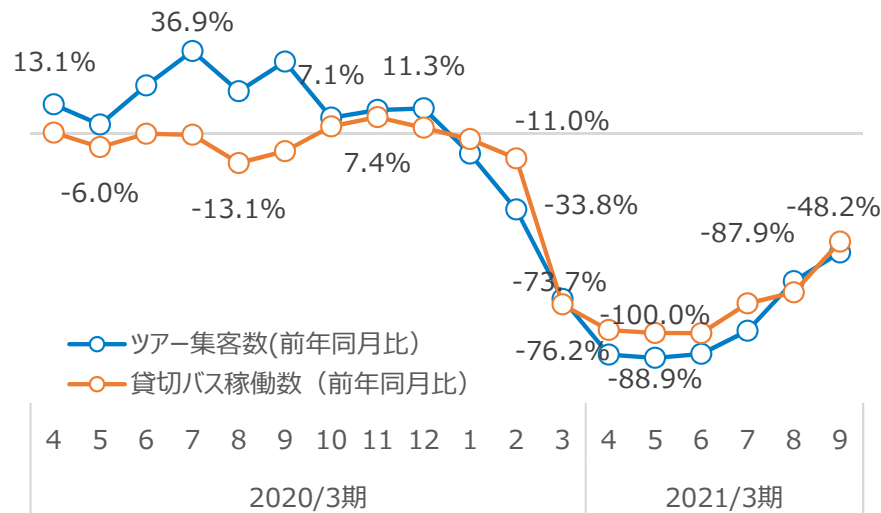
# 旅行貸切事業概況

旅行貸切ではボトムが1Q。7月からは貸切バス稼働数、ツアー集客数ともに徐々に増加し、9月は前年比50%程度まで回復。訪日インバウンド需要は依然ないものの、国内旅行の増加が下支え

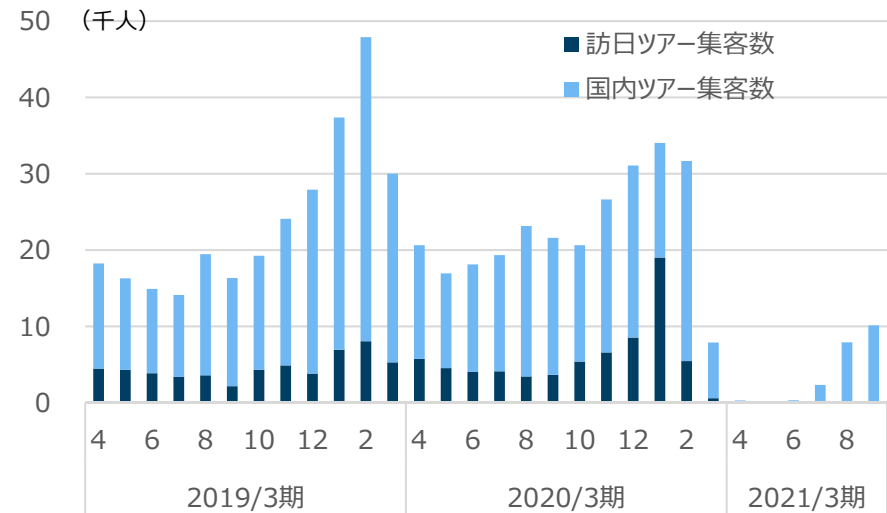
業績的にも、2Qは1Q比では大きく改善。ただし、売上は2Qでもまだ前年比3割程度にとどまり、赤字幅が大きい状況は前年4Q以来継続

(百万円)	2019/3期				2020/3期				2021/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,028	886	1,123	1,007	1,083	967	1,159	676	66	295
営業利益	▲35	▲157	55	▲79	▲5	▲112	85	▲347	▲582	▲406

旅行貸切事業 主要KPIの推移



旅行貸切事業 主要KPIの推移



# 不動産事業概況

賃貸事業は高稼働維持ながら、賃料減額や改装工事に伴う解約等により減収減益

住宅建設でも消費増税の反動による注文住宅引渡しが減少。建設工事も前年にあった大規模改修工事が一巡。両サブセグメントとも売上減に

(百万円)	2019/3期				2020/3期				2021/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	928	1,136	1,047	1,036	920	1,244	1,684	1,312	744	949
営業利益	341	355	324	437	340	457	374	304	320	355

## ＜主な賃貸収益物件＞



姫路ターミナルスクエア



ジョイア住道 (2020年3月取得)



ラウロ豊里(2020年8月取得)

# 連結貸借対照表

自己資本比率は73.5%と、コロナ禍で厳しい状況が続く中でも財務安定性は盤石

実質無借金経営継続。ただし、厚めの手元資金を確保しておくために、借入金を意識的に積増し

(単位：百万円)	2020年3月末	2020年9月末	前期末比
<b>流動資産</b>	<b>13,975</b>	<b>10,499</b>	<b>▲3,476</b>
現金	7,369	5,543	▲1,826
売掛金	4,630	2,881	▲1,748
<b>固定資産</b>	<b>42,312</b>	<b>44,558</b>	<b>+2,246</b>
有形固定資産	34,708	36,894	+2,185
その他	7,603	7,664	+60
<b>資産合計</b>	<b>56,287</b>	<b>55,057</b>	<b>▲1,229</b>
<b>負債</b>	<b>13,125</b>	<b>14,584</b>	<b>+1,459</b>
有利子負債	615	3,093	+2,477
未払金	2,755	2,190	▲565
その他	9,754	9,301	▲453
<b>純資産</b>	<b>43,161</b>	<b>40,472</b>	<b>▲2,689</b>
<b>負債純資産計</b>	<b>56,287</b>	<b>55,057</b>	<b>▲1,230</b>
<b>Net Cash*</b>	<b>6,753</b>	<b>2,449</b>	<b>▲4,304</b>

主な売掛金内訳  
 ✓ 未収補助金の減少 (▲11.3億円)

主な有形固定資産内訳  
 ✓ 賃貸収益不動産増 (+6.8億円)  
 ✓ 神戸車庫用地取得 (+22.5億円)  
 ✓ 観光バスリースバック (▲3.6億円)

主な有利子負債内訳  
 ✓ 長期借入金 (+23.4億円)  
 ✓ リース債務の増加 (+2.2億円)

主な未払金/その他内訳  
 ✓ 未払税金減少 (▲5.0億円)  
 ✓ 旅行仕入 (▲0.9億円)

自己資本比率73.5%

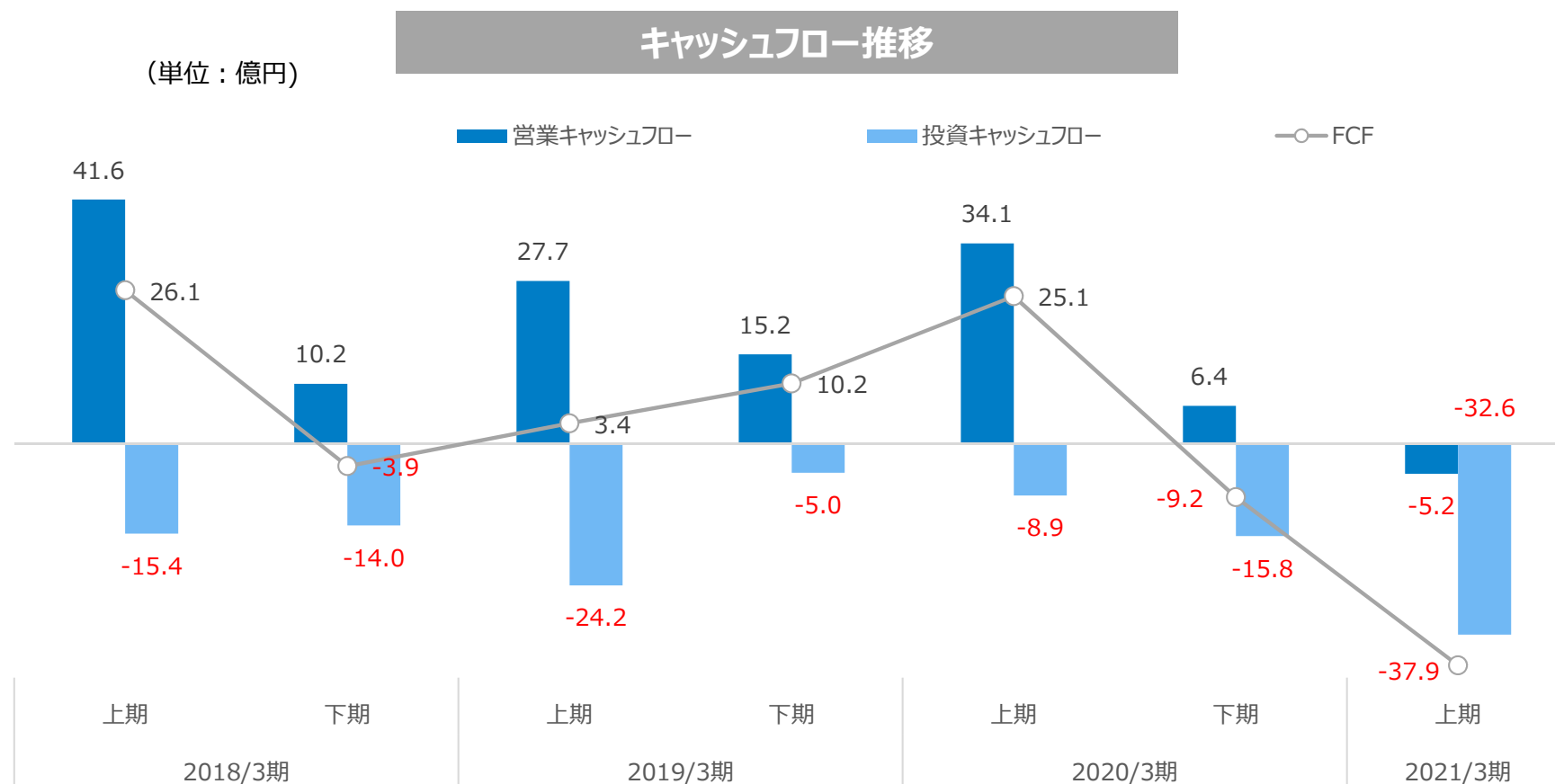
実質無借金経営継続

\*Net Cash=期末現預金 - 期末有利子負債残高

# キャッシュ・フローの推移

当2Qの営業CFは厳しい本業の影響を受けて赤字に転落。設備投資もコロナ禍発生以前に決めた固定資産取得の支払いが嵩み、FCFは赤字を計上。手元資金取崩しと借入金増で対応

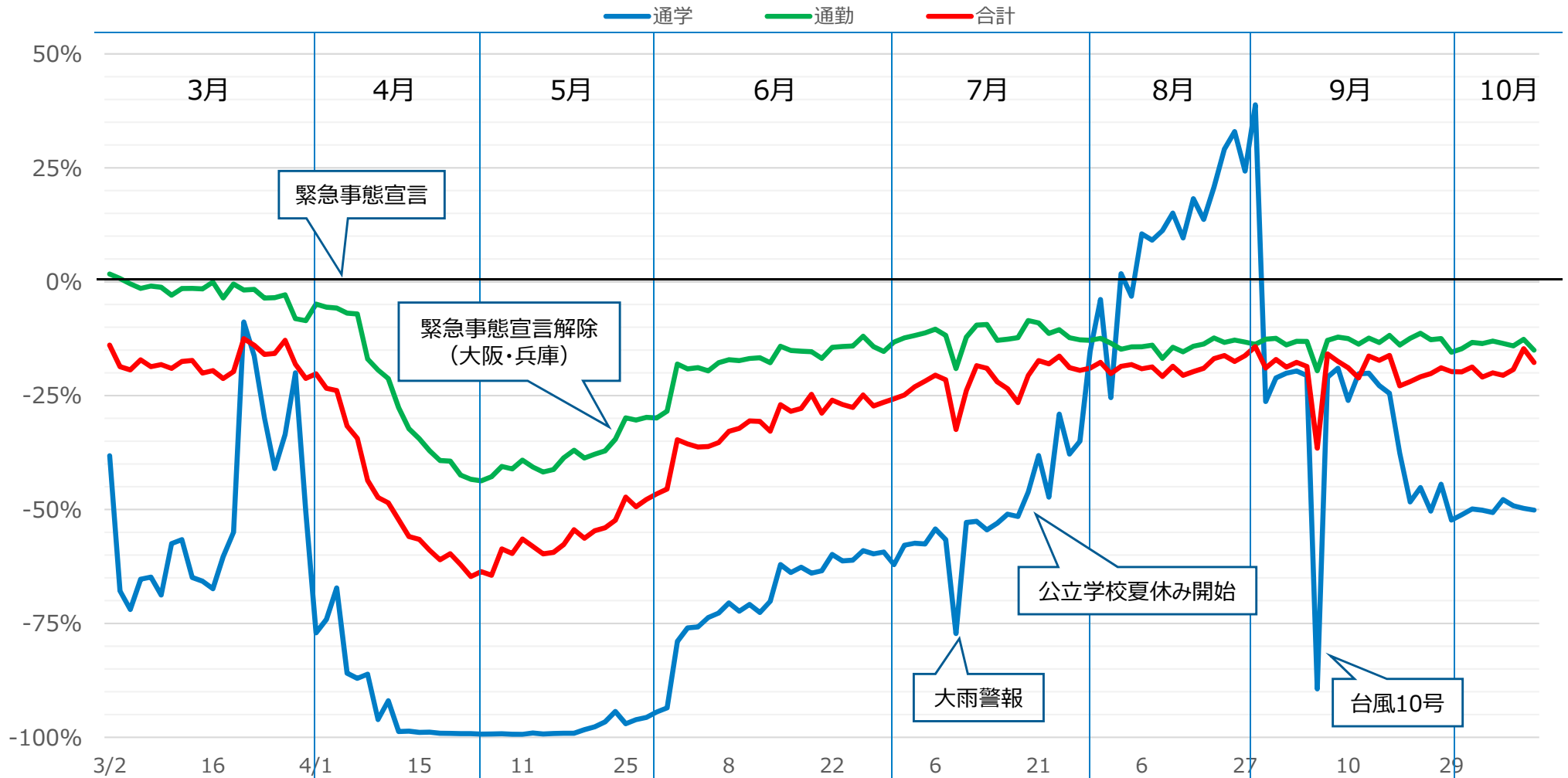
半期別のCFを見ると、コロナ禍の影響がインバウンドで出始めた前下期から急速に縮小。下期以降は投資でブレーキを踏み込んだ効果の発現を見込み、FCFも改善を想定



\*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

# ICカード利用から見た平日の属性別利用状況推移

平日のバス利用状況は、通勤利用で一定ピッチの減少が継続。通学も前年の水準が低い夏休み期間には一時的に前年比プラスとなるも、通常期間では失速状態に回帰







# 2021年3月期 業績見通し

# 2021年3月期 通期業績見通し

業績大底は上期との認識ながら、今期いっぱいコロナ禍の影響は残ることを前提に、通期19%減収、13億円の経常赤字を想定。経常赤字の計上は1982/3期以来、実に39年ぶり  
 営業収益400億円割れは、6期ぶり。その当時とはコスト構造の変化が大きく、結果的に損益面では厳しい状況に。トップライン回復に加え、ポストコロナに応じたコスト構造再構築が急務に

(百万円)	2019/3期 実績	2020/3期 実績	2021/3期 予想	対前年比	
				増減額	増減率
営業収益	45,889	45,076	<b>36,500</b>	▲8,576	▲19.0%
営業利益	2,326	2,043	<b>▲2,120</b>	▲4,163	—
経常利益	2,567	2,224	<b>▲1,290</b>	▲3,514	—
経常利益率	5.6%	4.9%	<b>▲3.5%</b>	▲8.4p	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,749	993	<b>▲1,650</b>	▲2,643	—
ROA*	4.5%	3.9%	—		

\*ROA=経常利益/期中平均総資産

# 2021年3月期 半期別業績見通し

■ 半期ベースでは、下期に営業黒字浮上を想定。コロナ禍の影響は依然残るものの、営業収益回復にこれまで実施したコスト削減効果の発現が重なり、経常利益率は前下期並みを回復へ

■ ただし、下期は例年季節要因から比較的好調な決算となる傾向が高い。コロナ禍からの回復の真価が問われるのは、2022/3期の上期になると考えるべき。コスト削減の手綱も緩めず

(百万円)	2020/3期		2021/3期			
	上期	下期	上期	下期見通し	Y/Y増減額	H/H増減額
営業収益	22,148	22,928	15,371	<b>21,129</b>	▲1,799	+5,758
営業利益	642	1,401	▲3,114	<b>994</b>	▲407	+4,108
経常利益	721	1,503	▲2,706	<b>1,416</b>	▲87	+4,122
経常利益率	3.3%	6.6%	—	<b>6.7%</b>	+0.1p	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	414	579	▲2,601	<b>951</b>	▲372	+3,552
ROA*	2.5%	5.3%	—			

\*ROA=年率換算経常利益/期中平均総資産

# 株主還元方針

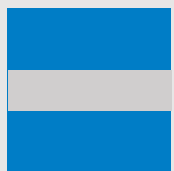
■ 中間配を見送り。大幅な経常赤字の計上、2半期連続のFCF赤字という状況を勘案

■ 期末配当も現時点では未定。下期に経常黒字浮上を見込むも、通期では依然赤字が残る見通し。先行不透明感も強い中、手元流動性や今後の業績動向を見極めて総合的に判断する方針

## 配当状況

(円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	前期差異
1株当たり当期純利益	262.17	290.55	164.99	△274.00	△438.99
1株当たり配当金	35.00	35.00	35.00	—	—
配当性向	13.4%	12.0%	21.2%	—	—

注) 2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しているため、2018年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定。  
配当性向は、配当金の支払い額/当期純利益で算出。



## 参考資料

## 企業理念

地域共栄 未来創成

## ビジョン

積み重ねてきたことと  
私たちの成長のすべてを、  
地域・社会に活かす。  
未来につなげる。

## 「誠実に、果敢に、おもしろく」

### 誠実に

関わる人すべてを思いやり、責任を持って、やり遂げる。

一人ひとりが頼られる存在になるように、お客様、地域、取引先、株主のみなさま、社員など…関わる人すべてを思いやるのが私たちの要。積み上げてきた実績や伝統から真摯に学び、関わる人すべてに責任を持って、やり遂げることから新たな伝統が生まれます。

### 果敢に

変化や失敗を恐れずに、粘り強く挑戦し続ける。

変化や失敗を恐れることなく、現状に満足しないで粘り強く挑戦し続ける姿勢。知識や経験を活かし、型にはまらず、勇気ある行動を積み重ねていくことが成果や成功につながります。

### おもしろく

自らの意志を持って、全力で仕事を楽しむ。

自らの意志を持って仕事に一生懸命取り組めば、私たち自身も、会社も、地域・社会も、未来も、もっとおもしろくなるはず。全力で、臨機応変に仕事を楽しめるかどうか、これからの成長の鍵となります。

# 沿革

- 1927/08 神姫自動車株式会社誕生（資本金20万円）
- 1949/06 菱油商事が神姫産業株式会社(現・連結子会社)に商号変更
- 1952/06 赤穂合同自動車株式会社が神姫自動車株式会社神戸タクシー部を吸収合併し、神姫タクシー株式会社(現・連結子会社)に商号変更
- 1961/10 大阪証券取引所へ上場(市場第二部)
- 1969/03 遞送部門を分離し、神姫遞送株式会社(現・連結子会社)を設立
- 1970/09 シンキ興業株式会社(現・連結子会社神姫フードサービス株式会社)を設立し、飲食業を開始
- 1970/04 車両部門(板金・塗装等)を分離し、完全自動車整備塗装株式会社(現・連結子会社神姫商工株式会社)を設立
- 1972/05 神姫バス株式会社に商号変更、事業年度を1年(3月末日)に変更
- 1982/12 神姫観光株式会社の旅行業以外の事業を分離し、神姫商産株式会社(現・連結子会社神姫クリエイティブ株式会社)を設立し、1983年4月乗車券発売・広告・保険代理業等を開始
- 1984/01 株式会社ホープ(現・連結子会社)を設立し、自動車の車両運行管理業を開始
- 1997/11 神姫観光バス株式会社(現・連結子会社)を設立し、1998年8月貸切旅客運送事業の運行部門の第一次営業譲渡を行い貸切旅行事業を開業
- 2006/01 株式会社ハウジング 幸陽を買収(現・連結子会社株式会社エルテオ)
- 2012/07 吸収分割により旅行事業を神姫バスツアーズ株式会社に移管更に、吸収分割により神姫バスツアーズ株式会社及び神姫観光バス株式会社の株式を神姫観光ホールディングス株式会社に承継させ、旅行事業及び貸切バス事業の経営を管理する中間持株会社体制を構築
- 2012/04 神姫観光ホールディングス株式会社を設立(現・連結子会社)
- 2012/03 神姫バスツアーズ株式会社を設立(現・連結子会社)
- 2013/07 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所(市場第二部)に上場
- 2016/10 タイ・バンコクにShinki International Co.,Ltd.を設立(現・非連結子会社) (2017/01)神姫産業株式会社が株式会社太陽商會を吸収合併
- 2018/04 東京オフィス開設
- 2019/03 Shinki International Co.,Ltd.がHeisei Enterprise Thai and Co.,Ltd.を買収(現・非連結子会社Thai cross Japan Tour Co.,Ltd.)
- 2019/10 神姫バスオール株式会社を株式会社エルテオに吸収合併させ、神姫バス不動産株式会社に商号変更
- 2020/05 神姫観光ホールディングス株式会社、神姫バスツアーズ株式会社を神姫観光バス株式会社に吸収合併させ、神姫観光株式会社に商号変更



# 財務ハイライト（連結経営指標）

決算年月	単位	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
売上高	(百万円)	43,873	44,522	44,562	45,889	45,076
経常利益	(百万円)	3,276	3,027	2,821	2,567	2,224
当期純利益	(百万円)	2,133	1,991	1,579	1,749	995
包括利益	(百万円)	2,157	2,099	1,692	1,039	455
資本金	(百万円)	3,140	3,140	3,140	3,140	3,140
発行済株式総数	(株)	30,860	30,860	6,172	6,172	6,172
純資産額	(百万円)	38,553	40,614	42,102	42,915	43,161
総資産額	(百万円)	54,418	55,585	57,371	56,638	56,287
1株当たり純資産額	(円)	6,394.52	6,737.43	6,986.55	7,121.77	7,162.92
1株当たり配当額	(円)	5.00	6.00	35.00	35.00	35.00
1株当たり当期純利益額	(円)	354.07	330.54	262.17	290.55	164.99
自己資本比率	(%)	70.81	73.02	73.34	75.73	76.63
自己資本利益率	(%)	5.69	5.03	3.82	4.12	2.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	5,436	4,048	5,177	4,299	4,059
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△5,004	△3,124	△2,954	△2,926	△2,473
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△632	△1,197	△1,037	△775	△555
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,702	4,429	5,615	6,212	7,244
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	(人)	3,203 [1,730]	3,280 [1,728]	3,207 [1,748]	3,281 [1,789]	3,293 [1,758]

※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益額を算定しています。

## < 見通しに関する注意事項 >

---

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
総務部 IR担当 柏木・小森  
079-223-1241 (代表)  
ir@shinkibus.co.jp